

発行者
諫早市立真城中学校
校長 山内 昇

学校教育目標

- 広い心と公正な判断力のある、情操豊かな生徒を育成する。（徳育）
- 自ら求めて学び、豊かな知性を備え、創造力に富む生徒を育成する。（知育）
- 健康でたくましく、忍耐力に富む生徒を育成する。（体育）

夏休みの作品(家庭科)



前回までは、美術科の作品を紹介していましたが、今回は家庭科の作品を紹介します。

上の写真は、全国中学生創造モノづくりフェアに向けて諫早市の代表選考に出品する、本校から選ばれた代表品です。かなりの力作ぞろいで、夏休みに一生懸命に制作に取り組んだことがわかります。写真で十分にお伝えすることができないのが残念です。

右の写真は、3年生の鳥越さんの作品ですが、卵焼きの色の選択が素晴らしく、布で作ったとは思えません。とてもリアルで、ふたを開けて食べたくなる作品です。



左は、2年生の山村君の作品です。自動車のクッションですが、フロントの「R」のエンブレムにこだわりを感じました。これがわかる人は少ないかも？



ポーチのファスナーの中からお肉やおにぎりなどが出てきたり、工夫されたバッグ、子どもにも安全なフェルトのボールなど、個性豊かな作品ばかりでした。また、改めて手作りの良さを実感しました。スマートフォンなどの電子機器を使う時間が長くなった現代ですが、手作りの温かさを忘れないようにしてほしいと思います。

○ イングリッシュスピーチコンテストについて

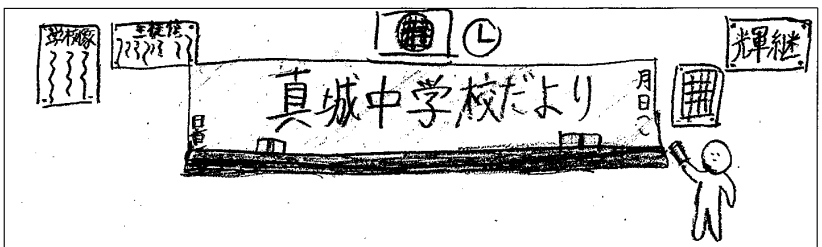
10月11日（土）午後、諫早市イングリッシュスピーチコンテストが、諫早文化会館で開催されます。小学校5・6年生と中学生の中から、各学校の代表が出場します。本校からは、3年生の松竹さんが出場します。テーマはIsahaya, a place in my heartです。原稿を読ませてもらいましたが、ふるさといさはやについて、よさや課題、自分の思いなどを英語でしっかりと述べることができていました。11日に先立って、6日（月）全校集会で松竹さんに発表してもらい、予行練習としながらも、他の生徒への刺激になればと考えています。



私も、昨年のスピーチコンテスト（中央公民館で実施）を参観しました。諫早市の小中学生のレベルの高さに驚かされるとともに、素晴らしい子どもたちが、たくさん育っていることに頼もしさを感じました。「こんなことなら、自分も学生時代、一生懸命、英語に取り組んでおけば・・・」という気持ちになりました。

以前も紹介しましたが、英検（実用英語技能検定）やTOEIC（トイック）で資格やハイスコアを残すと、進学や就職で有利になると言われています。2040年には、日本の人口の約10%が外国の人になるという予想も出ています。生徒たちが大人になるときは、高い英語力を持っていることが必須になっているのかもしれません。

この中学校3年間での「学び」は今後の自分の人生を決める重要なものです。少し「先」「将来」を見据えて、力を蓄えてほしいと願っています。



今回の「輝継」のタイトルは、2年1組の森くんの作品です。教室の正面側、「黒板」をモチーフにして「学校だより」の文字がかかれています。日頃見慣れた風景をデザイン化して、タイトルとする工夫が素晴らしいですね！黒板の横に立ってるのは、自分？先生？どちらでしょうか。

○ 昨日の給食

昨日（24日）の給食は、**ハヤシライス**、**キュウリとパインのサラダ**、**ヨーグルト**でした。ハヤシライスは具沢山の、牛肉まで入っており、豪華なメニューでした。給食の定番である、フルーツの入ったサラダも、サッパリして美味しかったです。これに加えて、ヨーグルトまでデザートで出ていることに驚きです。



先日、他県の学校に通っている親戚の小学生と給食の話題になったので、撮りためていた写真を見せると、「オ〜！」という歓声とともに、その充実ぶりに驚いていました。私たちにとっての当たり前が、いかに恵まれているかを実感しました。

ちなみに、今日（25日）は親子丼・かぼちゃフライ、明日（26日）は肉じゃが、鶏肉の照り焼き、と充実したメニューが続きます！おいしい給食に感謝です！！